

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00220

研究課題名(和文) 環太平洋・間アジア視点から近代日本大衆音楽史を読み直す

研究課題名(英文) Rereading Modern Japanese Popular Music History from a Trans-Pacific and Inter-Asian Perspective

研究代表者

輪島 裕介 (Wajima, Yusuke)

大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・教授

研究者番号：50609500

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本の大衆音楽史をアジア/太平洋地域との関連において捉え直すことを目指した。特に、「シティポップ」「ディスコ」「アニメソング(アニソン)」という3つのジャンルのトランスナショナルな生産と受容の文脈に注目し、日英両言語での口頭発表および論文執筆を行った。東アジアの「反日」現象に関する理論的著作の翻訳に加わり、帝国日本と占領期、冷戦期を連続したものとして考える視点を獲得した。1920年代から60年代頃までの大阪の音楽文化を、近隣地域との関係も含めて貫戦史的に捉える研究に着手した。

COVID19直前の2019年度に目覚ましく発展した国際的研究ネットワークを維持するよう努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一国史的な歴史記述や、英語圏の「洋楽」(とりわけアメリカ)の影響を特権視する見方を乗り越え、近隣地域との相互関係の中で、人々の日常的な営みとしての音楽の歴史的展開を学術的に検討することで、非西洋地域の近代化という大きな文脈の中で、日本の大衆音楽史を位置づけ、他地域の経験と相關的に研究するための視点が獲得される。

具体的には、「西洋近代音楽」の影響の有無と開国以前/以後を恣意的に重ね合わせる傾向が強固であった日本音楽史記述や、戦前/戦後の分断を前提とし、占領期の米軍キャンプを象徴的な起源とするポピュラー音楽史記述を、より包摂的で多様性に開かれた過程として書きかえることが可能となる。

研究成果の概要(英文)：This study aims to reinterpret the history of Japanese popular music in the context of the Asia-Pacific region. Focusing on the transnational production and reception of three genres; City Pop, Disco, and Anime Songs (Anison); presentations and papers were delivered and authored in both Japanese and English.

Furthermore, participation in the translation of theoretical work on anti-Japanese sentiment in East Asia led to adopting a perspective that connects Imperial Japan, the occupation period, and the Cold War. Additionally, research was initiated on the musical culture of Osaka from the 1920s to the 1960s, analyzing its interactions with neighboring regions within a transwar framework.

Efforts were also made to sustain the international research network that had flourished during the 2019 academic year, just prior to the onset of COVID-19.

研究分野：音楽学

キーワード：東アジア 環太平洋 大衆音楽 シティ・ポップ ディスコ アニメソング(アニソン) 大阪 ちんどん屋

1. 研究開始当初の背景

本研究は、これまで研究代表者が関わってきた 1・近代日本音楽史研究、2・「貫戦期」的視点からの日本文化史研究、3・主に英語を共通言語とするポピュラー音楽研究における英語圏以外の地域への関心、4・2000 年代以降萌芽的に形成されつつあるインターアジア・ポピュラー音楽研究、という 4 つの学術領域が交差する地点において着想された。日本の大衆音楽史は、アジア / 太平洋地域の近代化の過程のなかにもどのように位置づけられるのか、というのが根本的な問題関心である。

着想の背景となる具体的な音楽的現象としては、近年における「シティポップ」と呼ばれる 1970 年代後半から 80 年代の日本製ポップ音楽の世界的流行があった。なかでも、欧米圏とアジア圏では、その意味づけやローカルな文脈での実践のあり方に差異があることに関心を持った。

また、代表者がこれまで行ってきた「演歌」の研究を国際的に発信してゆくなかで、韓国や台湾など旧植民地を中心に、しかしそれにはとどまらない範囲で日本の大衆音楽がアジア圏で広く受容されていることを改めて確認し、各地の研究者との研究ネットワークを構築する必要性を強く感じた。

2. 研究の目的

概ね 1920 年代から現代までの日本の大衆音楽史を、太平洋圏という観点から、特にアジア諸地域内部の相互関連に注目して再検討する。そのことによって、従来もっぱら「洋楽」の受容という観点から語られてきた日本の近代音楽史(必ずしも大衆音楽に限定されない)を相対化し、近隣諸国・諸地域との比較が可能となるような歴史記述を行うための諸前提を探求する。

さらに、通念的な日本の大衆音楽史において暗黙の前提とされてきた「戦前 / 戦後」といった時期区分や、「演歌・歌謡曲 / ポップ・ロック」といったジャンル区分自体の限界を指摘し、批判的に乗り越え、日本の大衆音楽史記述を包括的に捉える視点の獲得を目指す。

具体的には、1・1920 年代以降の日本製流行歌(1970 年代以降「演歌」と呼ばれるようになるもの)が、戦後アジア圏でどのように受容されたのか、その過程で、帝国日本の記憶はどの程度残存しあるいは消去されたのか、2・「シティポップ」という語で近年注目される 1970 - 80 年代の日本の音楽について、当時における生産と受容の文脈と、現代における受容の文脈の間にはどのような差異があり、また現代における文脈は異なる地域でどのような差異と共通性を持つのか、を探求する。

さらに、時代的にも地理的にも広い範囲を扱うため、共同研究を視野に入れた研究者ネットワークの構築も重要な目的のひとつとなる。

3. 研究の方法

文献・録音・映像などの分析に基づく資料的研究と、フィールド調査及びインタビューによる経験的研究を複合的に用いて研究を進めた。

レコード、ラジオ、トーキー映画、テレビといった複製技術に依拠する大衆音楽スタイルの形成と変容過程を、圏域内での「西洋」経験の同時性・近似性と、日本が(20 世紀前半は「帝国」として、後半は「経済大国」として)比較的長期間にわたって他地域に一定の影響を及ぼしてきた経緯の双方に留意しながら検討した。単に「日本の」音楽の拡散の過程として考えるのではなく、それぞれの場所の具体的な文脈の中でどのように意味づけられ、それぞれの場所の既存の文脈とどのように関係づけられるのか、にも注目した。

4. 研究成果

論文 5 件(うち査読有り 1 件)、学会発表 25 件(うち国際学会 17 件、英語によるもの 8 件)、図書 13 件(うち単著 1 件、翻訳 1 件、共訳 1 件、英語によるチャプター 1 件)を得た。

本課題の基本的な問題関心については、論文集『ポップ・ミュージックを語る 10 の視点』の担当章で概略的に明らかにした。また、2022 年の国際ポピュラー音楽学会大会において、アジア各国のポピュラー音楽研究者によるラウンドテーブル "Made in Asia" に参加し、英語圏のポップ音楽の影響をひとまず共通の経験としつつ、相異なる政治的・文化的背景のもとで、それぞれ独自の形成過程をもつアジア各地域の音楽シーンについて、相関的な視点で研究し、その知見を共有することの重要性を確認した。

「演歌」については、フランス、韓国、台湾で研究発表を行った。とりわけ、韓国と台湾における大衆音楽史研究の第一人者であるチャン・ユジョン教授(韓国・檀国大学校)、陳培豊教授(台湾・中央研究院)と交流を深めることができた。陳教授による、日本の影響下に発展した台

湾語歌謡の先駆的な通史『歌唱台湾』の日本語版刊行に際しても意見交換を行っている。これらの知見を取り入れた研究成果は、目下、新潮社ウェブマガジン「考える人」に「北島三郎論」を連載中であり、近日中に単著としてまとめる予定である。

「シティポップ」については、1970 - 80 年代の日本における形成過程において、ディスコという場での受容と、そこでの音楽スタイルの影響が重要であることを発見した。その背景として、日本の音楽市場の拡大を背景に、アメリカとヨーロッパの音楽産業との関係が深まるなかで、欧米市場での成功を直接的に目指したレコード制作が始まり、それが現在「シティポップ」と呼ばれる音楽スタイルの形成において極めて重要な役割を果たしたことを明らかにした。この成果は、日本語の論文集『音楽の未明からの思考』『音と耳から考える』『シティポップ文化論』で発表すると同時に、世界各地のディスコ文化の国際比較を行う論文集 *Global Dance Cultures in the 1970s and 1980s: Disco Heterotopia* にも寄稿した。また、現代のアジア圏で、クラブにおけるダンス音楽の文脈で、DJとして日本の1970 - 80年代の音楽を先駆的に紹介してきた岸野雄一氏とも親交を深め、意見を交換した。

当初想定していなかったが、日本の音楽のトランスナショナルな展開を考えるうえで不可欠な研究対象として、TVアニメ主題歌(「アニソン」)についても研究を進めた。初期の、アメリカの影響を強く受けた、子供向けの教育的・啓蒙的な音楽スタイルから、1960年代後半以降の主流的な大衆音楽界の変化とも呼応して、徐々に「日本的」な意匠を取り入れるようになり、さらに、民族音楽学者・小泉文夫が提唱した、日本の「固有」の音階としての「二六抜き短音階」を意図的に用いた作曲家・渡辺宙明の作風が、アニメ及び特撮作品の音楽の一つの典型として定着し、やがて世界的に受容されるに至る過程を明らかにした。日本語での口頭発表と論文の刊行を経て、英語ブックチャプターとして2024年7月刊行予定の *The Palgrave Handbook of Music and Sound in Japanese Animation* に収録される予定である。

理論的な研究としては、第二次世界大戦後および冷戦後の東アジア各地における反日現象を映画や文学をはじめとする文化表象の分析を通じて広汎に扱うレオ・チン『反日』の翻訳チームに参加し、ここでの議論を元に、2022年の日本ポピュラー音楽学会大会でラウンドテーブルを開催し、コーディネーターを務めた。

さらに、日本出身でアメリカを拠点とする民族音楽学とサウンド・スタディーズの研究者、阿部万里江による、ちんどん屋に関するモノグラフを翻訳し、日本の近代化の過程において、矛盾を含む形で成立した「音の商売」であるちんどん屋についての知見を深めた。と同時に、音が実際に鳴り響く場所、とりわけ都市の空間についての関心を深め、大阪という都市の雑種の・越境的な性格に注目した研究を開始した。

当初予定していた4年の研究期間のうち、3年間はCOVID19の影響を受け、研究期間を1年延長したものの、当初予定していた海外調査やネットワーキングは必ずしも十分に行えなかった。ただし、オンラインでの国際学会発表が一般化したことで、研究成果のアウトプットは十分な量を行えたと自負している。

これらの研究成果に基づいて、2023年度から基盤研究(C)「近代日本ヴァナキュラー音楽史の構想；上演の場の連続性と越境性に注目して」を開始し、2つの研究課題をまたぐものとして単著『昭和ブギウギ』を刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 輪島裕介	4. 巻 56
2. 論文標題 初期テレビアニメ主題歌の音、産業、 思想:手塚・トリローから宙明へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 待兼山論叢 芸術篇	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 輪島裕介	4. 巻 62
2. 論文標題 書評 阿部万里江『チンドン屋の響き：現代日本における音の空間と社会的つながり』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本研究	6. 最初と最後の頁 189-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15055/00007641	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 輪島裕介	4. 巻 36
2. 論文標題 踊るアジア、きらめくシティ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京人	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 輪島裕介	4. 巻 51
2. 論文標題 北からやってきたザ・スターリン、北へ帰る遠藤ミチロウ：「上京者の歌謡史」のために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 226, 233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 北島三郎論：在地音楽として艶歌を再考する
3. 学会等名 嘉泉大学アジア文化研究所国際シンポジウム「トロットとエンカ：東アジアを越えて世界へ」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 WAJIMA, Yusuke
2. 発表標題 The Discovery of "Japan" through the Geographic Imaginations of Enka: Reminiscing the Empire and Incorporating "America"
3. 学会等名 International Association for the Study of Popular Music Biennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 WAJIMA, Yusuke
2. 発表標題 Made in Japan
3. 学会等名 International Association for the Study of Popular Music Biennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 笠置シヅ子と大阪
3. 学会等名 立教大学アジア地域研究所、国立台北芸術大学共催「2022 東アジア大衆演劇国際学術シンポジウム グローカル化を巡って」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 WAJIMA Yusuke
2. 発表標題 “Made in Japan”, Inspired by Filipino Performers: The Rise and Fall of Latin Dance-Music, Dodonpa
3. 学会等名 Latin American Studies Association Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 「明日はどっちだ?」: 1960~70年代テレビアニメ主題歌のメディア、産業、思想
3. 学会等名 表象文化論学会大会シンポジウム「シンポジウム: オーディオビジュアルの歴史における「アニソン(1960/1990)」: テレビまんが・音盤・ノスタルジー」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 レオ・チン『反日』から考える戦後東アジア大衆音楽の諸相
3. 学会等名 日本ポピュラー音楽学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 道頓堀ジャズからドドンパへ: 近代大阪の歌と踊り
3. 学会等名 台湾・国立台北芸術大学戯劇学院主催シンポジウム「移轉的大衆戯劇: 民衆記憶的顯影與體制的重建」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 声とからだの泣き別れ、そしてめぐりあい：音盤と(で)踊る身体
3. 学会等名 名古屋大学大学院人文学研究科附属超域文化社会センター国際シンポジウム「音/声の文化史」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 シティ・ポップの東京、上京者のポップ
3. 学会等名 東京都立大学オープンユニバーシティ「シティポップから考える」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 WAJIMA Yusuke
2. 発表標題 Mambo Boom in 1955: Mambo Boom in 1955: The Birth of Youth Subculture in Post-war Japan
3. 学会等名 Association for Asian Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 WAJIMA, Yusuke
2. 発表標題 Against "City Pop": In Search for a Genealogy of "Country Pop" in Japan
3. 学会等名 The 7th Inter-Asia Popular Music Studies (IAPMS) Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 宝塚・松竹・「道頓堀ジャズ」:近代大阪の歌と踊り
3. 学会等名 立教大学アジア地域研究所国際論壇「娯楽市場と芸態」(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 「はっぴいえんど史観」と「シティポップ」:日本の大衆音楽における真正性とカノン形成
3. 学会等名 大阪大学グローバル日本学教育研究拠点/「国際日本研究」コンソーシアム国際シンポジウム「日本研究の新展開:グローバル化時代の研究・教育を見据えて」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 はっぴいえんど史観とシティポップ:大衆音楽史研究の可能性と陥穽
3. 学会等名 玉川大学リベラルアーツ学科学際研究会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 WAJIMA, Yusuke
2. 発表標題 Japanese Disco as Precursor to J-Pop and City Pop
3. 学会等名 International Symposium, "What's Up, A-Pop?: Re-Thinking the Relationships between/among Asian and Asian American Popular Music Cultures" (コロンビア大学グローバセンター北京)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 「日本を代表する歌謡」の内と外：演歌と国際歌謡祭
3. 学会等名 翰林大学校日本学研究所主催国際シンポジウム「冷戦時代の東アジアにおける大衆文化の中のナショナリズムと文化権力」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 WAJIMA, Yusuke
2. 発表標題 A Genealogy of 'Pseudo-International' Songs
3. 学会等名 Shared Campus, Thematic Focus "Pop Cultures" Kick-off Symposium, "GLOBAL POP CULTURES. MOVING BEYOND THE HIGH-LOW, EAST-WEST DIVIDE" (於・京都精華大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 演じる歌手 / 歌う映画スターとしての美空ひばり
3. 学会等名 2019東亞大衆戲劇研究國際論壇「面向大衆：戲劇視野、場域的建構與生成」(於・国立台北藝術大学)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 1960年代における演歌の発見 / 発明
3. 学会等名 国際日本文化研究センター・パリ・アカデミックプログラム「大衆文化の発見」(パリ・ディドロ大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 輪島裕介
2. 発表標題 踊るJ-POP? : ダンスと振付の間
3. 学会等名 日本ポピュラー音楽学会2019年度第1回中部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 WAJIMA, Yusuke
2. 発表標題 "Pseudo-International" Songs in Japanese Disco: Rethinking the Dichotomy of Foreign/Domestic in Japanese Popular Music
3. 学会等名 International Symposium "Music in Global Context" (京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター共同研究「近現代の伝統音楽および民謡の変容と実践」企画)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 Flora Pitrolo, Marko Zubak (editors)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 345
3. 書名 Global Dance Cultures in the 1970s and 1980s: Disco Heterotopias	

1. 著者名 永富真梨、忠聡太、日高良祐 (編著)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 264
3. 書名 クリティカル・ワード ポピュラー音楽 : 聴く を広げる・更新する	

1. 著者名 阿部万里江（著）、輪島裕介（訳）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 296
3. 書名 ちんどん屋の響き：音が生み出す空間と社会的つながり	

1. 著者名 細井尚子（編著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 立教大学アジア地域研究所	5. 総ページ数 439
3. 書名 東アジアにおける舞台性大衆娯楽のグローバル化を巡って：論文集	

1. 著者名 レオ・チン（著）、倉橋耕平（監訳）、趙 相宇（訳）、永富 真梨（訳）、比護 遥（訳）、輪島 裕介（訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 270
3. 書名 反日：東アジアにおける感情の政治	

1. 著者名 細川周平（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 640
3. 書名 音と耳から考える：歴史・身体・テクノロジー	

1. 著者名 野澤豊一（編著）、川瀬慈（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 312
3. 書名 音楽の未明からの思考：ミュージッキングを超えて	

1. 著者名 Flora Pitrolo, Marko Zubak (editors)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 345
3. 書名 Global Dance Cultures in the 1970s and 1980s: Disco Heterotopias	

1. 著者名 細井直子（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 立教大学アジア地域研究所	5. 総ページ数 611
3. 書名 移行する大衆演劇～人々の記憶の現像と制度の再建～論文集	

1. 著者名 竹内幸絵（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 237
3. 書名 開封・戦後日本の印刷広告：『プレスアルト』同梱広告傑作選（1949 - 1977）	

1. 著者名 大和田俊之（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アルテス・パブリッシング	5. 総ページ数 342
3. 書名 ポップミュージックを語る10の視点	

1. 著者名 細井尚子（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 立教大学アジア地域研究所	5. 総ページ数 356
3. 書名 立教大学アジア地域研究所主催 国際シンポジウム 「東アジア文化圏の芸態にみる『大衆』～観念・実 体・空間～」論文集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------